Motivation and Creativity for All Teens.

15年前、東日本大震災で被災し
カタリバの居場所に通っていた彼女は、今はスタッフとして、
震災の年に生まれた生徒たちの学びに伴走する毎日です。

認定NPO法人カタリバ

年次報告

2024年度

2024年9月1日～2025年8月31日

どんな環境に
生まれ育っても、
未来をつくりだす力を
育める社会に

KATARiBA
Shape the Future

Message from Kumi Imamura

皆さまの温かなご支援に感謝を込めて

代表理事
今村 久美

日頃よりカタリバの活動を応援してくださり、誠にありがとうございます。

物価高や災害など「普通に暮らすこと」さえ難しいと感じる昨今、皆さまがそれぞれの暮らしの中で、子どもたちの未来を想って力を寄せてくださることに心強さを感じています。

おかげさまで、私たちは子どもたち一人ひとりの声に耳を傾け、時間をかけて伴走していくことができています。その中で、子どもたちが置かれた環境の複雑さに改めて気づかされています。

一例として、母子家庭で母親の精神疾患や祖父の介護、弟の世話などで、自分の将来を考える心の余裕や学習時間の確保が難しい中学2年生の生徒がいました。私たちは学習支援だけでなく、子どもを取り巻く問題を解きほぐしていく必要が同時にあると考え、介護サービスの調整や学校生活で配慮などがなされるように働きかけました。その結果、生徒は自分の将来を見つめる時間ができ、高校受験に向けて熱心に学習に取り組めるようになったことは、私たちにとっても大きな喜びです。

私たちは、子どもの周辺にある問題を解きほぐすこと、そして、課題を共有し、みんなで子どもを見守る「応援団づくり」も重要だと考えています。

夏休みには困窮世帯の子どもたちを、能登半島での体験旅行に連れていきました。地震と豪雨で被災しても前を向いて復興を誓う大人たちの姿に「あきらめていた高校に挑戦する」と勇気づけられた子どももいました。

等身大でがんばる大人たちの輪が広がることが、多くの子どもたちに勇気を与えると信じています。

カタリバは「どんな環境に生まれ育つ子どもたちも、意欲と創造性を手にできる社会」を目指しています。この願いを、これからも一緒に育てていけたらうれしいです。新たな年度もどうぞ皆さまのお力を貸していただけますよう、よろしくお願いいたします。

1 一人ひとりが自分で未来を切り拓けるように

専門機関との連携や奨学金の新設で、子どもの一歩を応援

[左]2025年夏休みに、様々な理由で施設に来ることが難しい子どもたちに対し、冷凍弁当を宅配する試みを行いました。北海道から沖縄まで全国の471人が利用しました。[右]放課後の居場所施設では、先生や親、友だちとも異なる「ナナメの関係」の立ち位置にあるスタッフが、子どもたちの本音に耳を傾け、一人ひとりに伴走しています。

2024年度のカタリバは、貧困やヤングケアラー、災害、不登校などをはじめとした、様々な困難を抱える子ども8,436人に、居場所施設の運営やオンラインサポートで、無料の学習支援やキャリア相談、食事提供、奨学金給付などを行い、子どもたちの学びと成長を応援しました。

子ども一人ひとりの実情に沿った支援をしていくためには、子どもたちが抱えている課題の多様さ、複雑さという壁がまず立ちはだかります。家庭の経済状況や家族構成も一人ひとり違えば、本人の発達特性や家族の健康状態も様々で、暮らす地域によって利用できる支援サービスも異なります。そのため、カタリバのスタッフは子どもの日常に伴走していく中で拾い上げた声や課題を整理し、その子にあった支援方法を考え、適切な専門機関へ届ける役割も担っています。

2024年度は、専門機関や自治体との連携が大きく進展した1年でもありました。自治体主催の研修等を通じて、地域全体で子どもを支えるネットワーク構築を実践しました。また、新たな試みとして「奨学金プログラム」を実施。既存の制度利用が難しい子どもに対し、資金援助だけでなく、生活設計を共に行う伴走支援をセットで提供することで、自立に向けた確かな一歩を後押ししています。

今後も、子どもたち一人ひとりの日常に伴走するとともに、様々な専門家機関との連携を深め、多重に困難を抱え複雑な家庭で育つ子どもであっても、社会とつながりを持ち、未来への一歩を踏み出せるよう、取り組んでまいります。

実績

届けた食事の数
1万6,136食

寄せられた相談件数
1,579件

奨学金の給付
50人

開催した集団授業
約1,000回

検定試験への挑戦
延べ184人

2 災害があっても、夢をあきらめない

災害が多発する日本での、子ども支援の形を模索して

カタリバは東日本大震災以降、発災直後からの子どもの居場所づくりに取り組んでいます。「すぐ」に現地に赴くことができるのは、日頃から皆さまにご寄付を託していただいているNPOだからこそです。災害現場ごとに異なるニーズを見極め、適切な支援に努めています。新たな試みとして、能登半島地震や大船渡市山林火災の際には「応援奨学金」を設立。受験費用などの喫緊の課題に対し、現地の声に応え、すぐに仕組みを作りました。NPOとして、現地のニーズを汲み取り、柔軟な支援の形をこれからも目指していきます。

避難所に開設した「みんなの子ども部屋」で、スタッフと遊ぶ子どもたち。災害で日常を奪われた子どもたちが安心して過ごせる場所を作ることで、心のケアをしています。

実績

災害時子ども支援アライアンス sonaeru

●2024年9月奥能登豪雨
緊急居場所支援 107人

●2025年2月大船渡市山林火災
緊急居場所支援 23人
応援給付金 28人

●2025年8月九州大雨災害（熊本県八代市）
緊急居場所支援 67人

3 どんな環境に生まれ育っても、意欲と創造性を手にするために

大人の応援団づくりが、子どもたちの未来をつくる

少子化と地方の過疎化により、暮らす地域で、得られる学びの機会の差が広がっているとカタリバは感じています。過疎地で公立学校の統廃合が進み、専門的な学びが十分に担保できないことも起きています。しかし子どもが挑戦する際に寄り添い応援する大人の存在が不可欠です。身の周りの課題解決に取り組んだ生徒が「まずやってみよう」という大人の言葉に背中を押されたと言います。生まれ育った環境に関わらず、すべての子どもが「自分には応援してくれる人がいる」と感じられるように、カタリバは「大人の応援団」の輪を広げることにも取り組んでいきます。

自分のプロジェクトの説明をする高校生（左）と、話に耳を傾ける大人（右）。カタリバではこうした場が全国に広がることを願って、様々な団体や自治体と協働しています。

実績

●探究的な学びの環境を地域で支える「地域パートナー」と協働
19都道府県 21団体

●子ども支援を始めようとする市民団体や自治体の支援
48団体／8自治体／1図書館

RESULT

2024年度（2024年9月1日〜2025年8月31日）の実績報告

マイプロジェクト

全国 ｜ 探究を届ける

探究学習に伴走する人材が不足する中、地域パートナーを15都道府県・15団体に拡充し、高校生107,057人がマイプロジェクトに挑戦できました。

奨学金プログラム

全国 ｜ 困難を支える

困難を抱える高校生24人に、受験進学費の給付と自立に向けた伴走支援を行いました。

※本プログラムはトライアルとして、コーチ財団からの寄付で実施しました。

被災地の"放課後学校" コラボ・スクール

大槌臨学舎（岩手県大槌町）・双葉みらいラボ（福島県双葉郡） ｜ 困難を支える

急速な過疎化および少子化が進む東北沿岸部において、小中高生1,020人に日常的な学び支援を行い、「未来を思い描く力」を届けました。

大槌高校魅力化プロジェクト

岩手県大槌町 ｜ 困難を支える

岩手県立大槌高校と協働し、生徒の未来を生き抜く力を培うことを目指し、探究的なカリキュラムを生徒216人に届けました。

RooTS

違いが生む、豊かな学び。

全国 ｜ 困難を支える

言語・制度・文化の壁により社会で孤立しがちな外国ルーツの子どもたちが未来に意欲を持てるよう、高校生たち271人に伴走しました。

ユースセンター起業塾

全国 ｜ 探究を届ける 困難を支える

子どもの居場所が各地にあることを目指し、全国25都道府県33団体等と共に挑戦し、3,596人の子どもたちが利用しました。

中高生の秘密基地。 b-lab

東京都文京区 ｜ 探究を届ける

中高生の放課後を支え、挑戦を後押しするユースセンター「b-lab」を、4,317人が利用しました。

RULE MAKING

全国 ｜ 探究を届ける

学校の先生方との対話の輪を広げ、全国81校の小中高生37,755人に「校則を主体的に見直す対話の機会」を届けました。

アダチベース ADACHI BASE

東京都足立区 ｜ 困難を支える

困難を抱える子どもたち246人に、毎日の学習や食事、季節の体験活動を届け、自立する力を育みました。

おんせんキャンパス Onsen Campus

島根県雲南市 ｜ 困難を支える

不登校の小中高生81人に、安心できる場と学びの機会、社会とのつながりを届け、保護者119人に寄り添いました。

災害時子ども支援アライアンス sonaeru

石川県能登半島、岩手県大船渡市、熊本県八代市 ｜ 困難を支える

被災した能登半島、岩手県大船渡市、熊本県八代市で子ども1,479人を支援し、保護者522人の相談を受けました。

- マイプロ地域Summit開催地
- sonaeru活動地域
- コラボ・スクール拠点
- 大槌高校魅力化プロジェクト拠点
- おんせんキャンパス拠点
- b-lab拠点
- アダチベース拠点

困難を支える ｜ 貧困や災害、不登校等の困難を抱える子どもたちを支える活動

探究を届ける ｜ どんな環境にいる子どもたちにも探究的な学びを届ける活動

※地図に掲載のない取り組みによる受益者数も含みます。

オンライン／全国

困難を支える

キッカケプログラム KIKKAKE PROGRAM

ヤングケアラーを含む生活困窮世帯の全国338人の子どもたちとその保護者299人に、オンラインによる伴走支援と学びの機会を届けました。

オンライン探究

過疎や中山間地の多様な出会いが不足する、小規模高校35校をオンラインでつなぎ、生徒1,486人に他地域の高校生や大人と学びを深める機会を届けました。

room-K

オンラインを活用して全国の不登校の小中高生188人の学びに伴走し、その保護者169人への支援に取り組みました。

相談チャット

すぐに連絡できるオンライン無料相談を通じて1,579人の子どもたちと、3,206人の保護者の悩みに寄り添いました。

Voice from Teens

子どもたちの声

"6年間の居場所がくれた、海外への夢"

アダチベース卒業生（2025年現在、学生）

みんなでご飯を食べた時間、みんなでおしゃべりをした時間、スタッフにいっぱい相談した時間、中高の6年間を過ごしたアダチベースから、たくさんのものをもらいました。初めは英語が苦手だったのに、英語の勉強法から海外生活の経験談までスタッフが教えてくれたことで、高3の夏休みにはアメリカの短期研修に応募する挑戦もできました。いつか海外で、自分の力を試してみたいという夢ができました。皆さんには感謝しかありません。

"私のために悩んでくれるスタッフがいたから"

room-K卒業生（2025年現在、高校生）

room-Kを始めたころの私はどん底でした。当時はずっと山登りを続けて息が切れているような心の状態だったと思います。私のために一緒に悩んだり、考えてくれる人がいるということが分かり、挫折せずに将来の目標のために学校に行くことや、勉強をがんばることができました。受験勉強でも、作文や面接練習などについて、繰り返し一緒に取り組んでくださいました。高校では「新しい挑戦」を大事にして、懸命にがんばりたいと思います。

ご支援いただいた企業・団体の皆さま

カタリバと共に子どもたちの未来を応援いただき、
心より感謝申し上げます。

COACH Foundation COACH FOUNDATION	WELLINGTON MANAGEMENT® Wellington Management	BANK OF AMERICA バンク・オブ・アメリカ	SMBC 三井住友カード 三井住友カード株式会社
ゆうちょ銀行 株式会社ゆうちょ銀行	SUNTORY サントリーホールディングス株式会社	CHOICE HOTELS JAPAN 株式会社チョイスホテルズジャパン	PRINCESS プリンセス・クルーズ
RM JAPAN FOUNDATION リシャールミルジャパン株式会社	プラチナ・ギルド・インターナショナル PLATINUM GUILD INTERNATIONAL プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社	ALLIANCEBERNSTEIN アライアンス・バーンスタイン株式会社	スギ薬局 株式会社スギ薬局
Daiwa House 大和ハウスグループ 大和ハウスグループ エンドレス募金	MFS Investment Management MFSインベストメント・マネジメント株式会社	WILL GROUP 株式会社ウィルグループ	Hinode 日野出株式会社
Tokyo Century 東京センチュリー株式会社	KPMG KPMGジャパン	Bloomberg Bloomberg	もったいない本舗 古本買取通販ドットコム株式会社
Firadis 株式会社フィラディス	VB VALUE BOOKS 株式会社バリューブックス	EPOS 株式会社エポスカード	Deloitte. デロイト トーマツ デロイト トーマツ グループ

自転車乗り有志一同 ｜ ベントール・グリーンオーク株式会社 ｜ 三菱マテリアル株式会社 ｜ 株式会社アミューズ ｜ アトミジャパン合同会社 ｜ 中外製薬株式会社 ｜ 株式会社MATARO ｜ 株式会社アトムシールド ｜ 株式会社すなおコンサルティング ｜ ピーアークホールディングス株式会社 ｜ 株式会社ANREAL STUDIO ｜ auじぶん銀行株式会社 ｜ エーエスエムエル・ジャパン株式会社 ｜ 日広建設株式会社 ｜ 一般社団法人足の８０２０ ｜ シナプティクス・ジャパン合同会社 ｜ インパクトジャパン株式会社 ｜ ACワークス株式会社 ｜ HiClub株式会社 ｜ トレッカンテ合同会社 ｜ 医療法人社団杏優会 ｜ 近畿交通警備株式会社 ｜ 株式会社紀伊國屋書店 ｜ 株式会社エヌ・ビー・シー ｜ The Simmons & Simmons Charitable Foundation ｜ ホンダ販売労働組合 ｜ 株式会社大和ネクスト銀行 ｜ 株式会社J-BISメンテナンス ｜ 株式会社ラクス ｜ さくら技巧株式会社 ｜ 住友ゴムCSR基金 ｜ 株式会社インターワークス ｜ 三通国際物流株式会社 ｜ 春日井ホールディングス株式会社 ｜ エスコ・ジャパン株式会社 ｜ インサイトブリッジ株式会社 ｜ 日本マクドナルド株式会社 ｜ 上田八木短資株式会社 ｜ 株式会社以和貴設計事務所 ｜ パーソルホールディングス株式会社 ｜ 株式会社あじせん ｜ 医療法人社団アップル歯科クリニック ｜ アリックスパートナーズ・アジア・エルエルシー ｜ 浜松産業株式会社 ｜ Euromonitor International ｜ 株式会社セールスフォース・ジャパン 社員ボランティアー同（Cloud Music Lovers） ｜ 松江しんじ湖ロータリークラブ ｜ 株式会社トスコ ｜ 豊臣ソフト開発株式会社 ｜ 株式会社渡辺技工 ｜ 株式会社KBふたば ｜ 旭商船株式会社 ｜ 有限会社エルエーファクトリー ｜ 株式会社イトーヨーカ堂 ｜ Luvir Consulting株式会社 ｜ ケルヒャー ジャパン株式会社 ｜ NPO法人ＫＯＫＯＲＯ訪問看護ステーションひかり ｜ 株式会社カーヴ・ド・リラックス ｜ 高森町立高森中学校 ｜ 株式会社スギヤマ薬品 ｜ 株式会社リコー ｜ 株式会社プロストホールディングス ｜ 株式会社エレテックコーポレーション ｜ 朝日企業株式会社 ｜ 合同会社樹 ｜ 株式会社東高工務店 ｜ 縄文アソシエイツ株式会社 ｜ YTMA合同会社 ｜ ドクターリセラ株式会社 ｜ 株式会社フジモリ ｜ 株式会社東京セントラル ｜ 株式会社インフォマート ｜ 新成リーガル司法書士法人 ｜ 一般社団法人善 ｜ 合同会社DMM.com ｜ 協同組合さいたま総合研究所 ｜ 株式会社共栄商会 ｜ 株式会社イーエムグループ ｜ 株式会社ハイデックス・和島 ｜ 株式会社ケーアイ内装 ｜ 株式会社as-is ｜ 株式会社TAKUTO ｜ 学校法人三木学園 白陵中学校生徒委員会 ｜ 混声合唱団オーデンコール ｜ 株式会社サカイ引越センター ｜ 水天宮

※敬称略 ※その他にも多くの企業・団体の皆さまからご支援いただきました

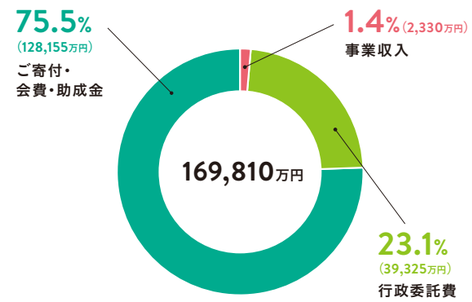
Finance 2024年度（2024年9月1日～2025年8月31日）の財務・会計報告

活動計算書（2024年9月1日～2025年8月31日）

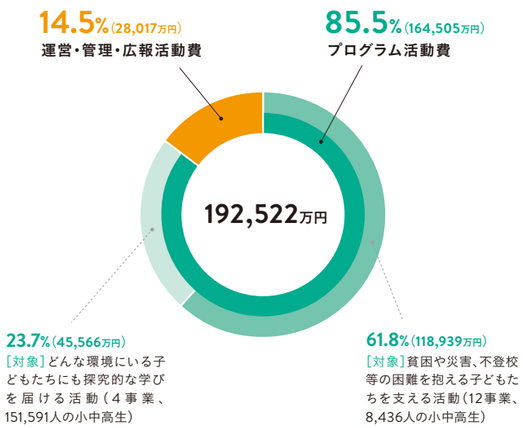
（単位：円）

	科目		金額
一般正味財産増減の部	1 受取会費	正会員受取会費・賛助会員受取会費	4,565,000
	2 受取寄付金	受取寄付金・指定正味財産の部より受取寄付金振替額	1,185,992,148
	3 受取助成金等	受取国庫補助金等・受取民間助成金	90,997,452
	4 事業収益	人づくりを通じた社会活性化に関する事業収益	0
		キャリア学習イベント等活動の企画・実施事業収益	199,173,912
		災害等により学習環境に恵まれない人たちのための通信教育、学習相談その他の教育事業収益	207,518,119
		普及啓発事業収益	2,486,365
	5 その他収益	受取利息・受取配当金・為替差益・雑収入	7,376,750
	経常収益 計		1,698,109,746
	1 事業費	人件費	781,368,090
		その他経費	1,025,442,739
		事業費 計	1,806,810,829
	2 管理費	人件費	32,759,873
		その他経費	85,657,248
		管理費 計	118,417,121
	経常費用 計		1,925,227,950
	当期経常増加額		▲227,118,204
	経常外収益		0
	経常外費用	固定資産除却損	4,238,215
	当期経常外増減額		▲4,238,215
	税引前当期一般正味財産増加額		▲231,356,419
	法人税、住民税及び事業税		395,000
	前期繰越一般正味財産額		2,025,972,354
次期繰越正味財産			1,794,220,935

収益の内訳



費用の内訳



AIの浸透や少子化、物価高騰、不登校者数の増加など、子どもを取り巻く環境格差は深刻化しています。こうした中、カタリバ2024年度は全15の事業で160,027人（前年度比1,001人増）の子どもたちへの支援・伴走を行いました。子ども一人ひとりに寄り添いながら、より多くの子どもたちの学びの環境が豊かであるために、新たな取り組みを創出しています。ヤングケアラー支援では外部連携を強化し、より柔軟な対応が可能になりました。地方の小規模高校の地理的要因による学びの環境の差を縮小させていくための取り組みでは、新たに奥能登地域が加わりました。新規の奨学金事業では費用給付とキャリア設計の伴走支援を開始。また、カタリバだけでは手が届かない地域への支援を担うパートナー団体への助成を拡大し、全国へ支援の輪を広げています。その結果、2024年度の経常費用は192,522万円（前年度比10,604万円増）となりました。また、経常収益は169,810万円（前年度比19,778万円減）となり、これは令和6年能登半島地震の緊急支援の寄付募集を予定通り終了したことが要因です。なお、経常収支は▲22,711万円となっています。これは前年度の決算を踏まえて、多様な支援を展開することを期初の予算作成に組み込み、計画的に執行した結果です。2025年度以降の計画でも、社会や子どもたちの環境の変化に柔軟に対応し、支援ニーズの高まりや想定外の災害等で発生する単年度での費用増加に備えて、中長期で継続的な支援ができる財務基盤を築いていく計画です。

ご寄付について お電話、もしくはWEBサイトからお申し込み・お問い合わせください。

遺贈・相続・お香典のご寄付も受け付けております。カタリバへの寄付は税制優遇の対象です。

0120-130-227 平日 9時半～17時半
03-5942-9646 平日10時～19時

カタリバ 問い合わせ 検索
https://www.katariba.or.jp/contact

認定NPO法人カタリバ 東京都中野区中野5-15-2 NPOカタリバ @katariba npo_katariba